

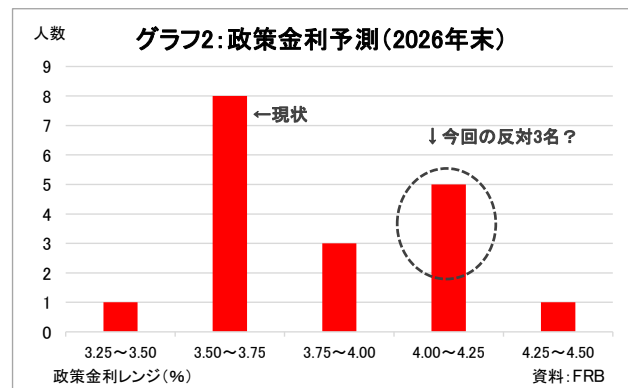
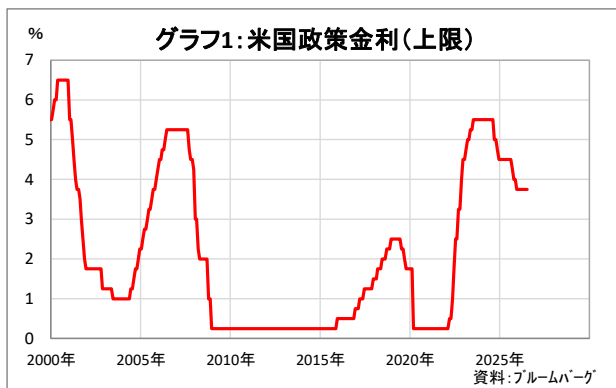
米国は予想通り政策金利を据え置き、そして円買い介入？

1. 5 会合連続で据え置き

米国当局は金融政策決定会合（FOMC）を開催し、29 日（日本時間 30 日未明）に政策金利の据え置きを決定しました。昨年 12 月に利下げを行った後、5 会合連続の据え置きとなります。ブルームバーグ社の調査では 104 人中 102 人が据え置き（2 人が 0.25% の利上げ）を予想していました。会合直前に先物市場では 0.25% の利上げを 32% ほど織り込んでいましたが、市場参加者の 32% が利上げを予想していたわけではなく、ウォーシュ議長は 5 月に就任して以来、フォワードガイダンス（将来の指針）を打ち出さない方針を示しているため、ほとんどの市場参加者が据え置きをメインシナリオとしつつもサプライズ利上げの可能性を完全に否定できなかったということでしょう。

FOMC は本部理事 7 名と 12 の地区連銀総裁で構成され、理事 7 名と地区連銀総裁のなかから 5 名が交代で投票権を持つことになります。今会合では 3 人の地区連銀総裁が 0.25% の利上げを主張し反対しました。同一内容での 3 人の反対はほぼ 10 年ぶりとなります。前回 6 月会合で公表された参加者の政策金利予測（グラフ 2）では 9 名が年内の利上げを予想していました。過去の発言等から年内 2 回の利上げを予想していた 3 名が反対に回ったものと推察されます。

ウォーシュ議長が就任してから 2 回目の会合となりますが、声明文は前回同様、極端に短いものとなり文言も前回とほぼ同じでした。



2. 次回 9 月会合はオープン

記者会見でウォーシュ議長は持論通り将来の示唆は控えました。一方で「今後数ヶ月（in the coming months）で見解の精度を高め、より優れた判断が可能となる」と発言、やや深読みすれば次回 9 月会合での利上げも選択肢になるということかもしれません。FOMC で議長は議論のリード役を担いますが、結果は投票で決定されることになります。中心メンバーと考えられるニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁、ジェファーソン副議長、ウォラー理事等の発言に注目したいと思います。もちろん物価、雇用関連指標の動向も重要なカギとなります。先物市場では現在 0.25% の利上げを 6 割程度織り込んでいます。

米国では9月7日のレイバーデーで夏休みは終わり、11月3日投票の中間選挙に向けての活動が本格化します。次回のFOMCは9月15、16日に予定されています。選挙戦たけなわのなか利上げに踏み切ることは難しいかもしれません。今回のFOMC前もトランプ大統領はあからさまな利下げ要求を繰り返していました。

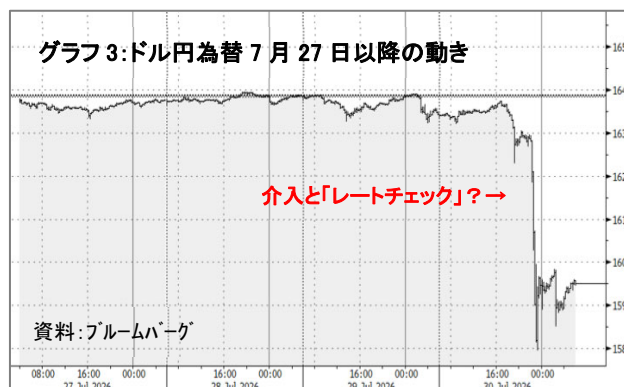
3. 米国時間に円が急反発

昨日（7月30日）米国市場オープン直後にドル円為替は急激に円高に振れました。日本当局のドル売り円買い介入とともに、米国当局が介入の前段階とされる「レートチェック」を行ったと報じられています。

高市首相は30日に食料品の消費税率を来年4月から2年間限定で引き下げる意向を表明しました。トランプ大統領は発言を簡単に撤回するためTACO（Trump Always Chickens Out～トランプは

いつも怖気づく）と揶揄されますが、高市首相もTACO（Takaichi Always Carries Out～タカイチはいつも実行する）かもしれません。ただし財源をめぐる具体策は明らかにされず、債券市場では不透明感が高まっています。債券売り（長期金利上昇）がさらなる円安をもたらすことも否定できないことから、当局が先手を打ったとも考えられます。

市場では介入で円高に振れた局面は「円キャリー取引（金利の低い円で調達しドル等で運用）」の絶好の機会という見方が根強くあります。米国当局は利上げに前向き、日本銀行の利上げには政治面から圧力がかかるという観測も後押しするかもしれません。ただし「円キャリー取引」には市場の安定が前提となります。テクノロジー関連銘柄を中心に株式市場が激しく上下し、また中東情勢の先行き不透明感も強いなか「円キャリー取引」には逆風が吹いているとも言えそうです。



本レポートは筆者の個人的見方であり弊社の公式見解ではありません。

債券運用部シニアストラテジスト 菊池 宏

※ 2026年5月以降のレポート

- 5月 1日号 4月の市場動向と5月の注目点
- 5月 15日号 AI、テクノロジー関連が日米株価を押し上げ
- 5月 22日号 長期金利上昇の背景
- 6月 1日号 5月の市場動向と6月の注目点
- 6月 19日号 日米金融政策決定会合は予想通りの結果に
- 6月 24日号 アジア通貨安、政策金利、そして株価
- 7月 1日号 6月の市場動向と7月の注目点
- 7月 7日号 2026年度第1四半期の市場動向と今後の注目点
- 7月 27日号 AI、テクノロジー関連株価の動向について

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

登録番号 金融商品取引業者
関東財務局長（金商） 第404号

一般社団法人資産運用業協会会員

〒105-7320 東京都港区東新橋一丁目9番1号
電話 03 - 4223 - 3145

*本資料に含まれている経済見通しや市場環境予測はあくまでも作成時点における弊社ストラテジストの見解に基づくもので、今後予告なしに変更されることがあり、また弊社商品における運用方針と見解が異なることがあります。

*本資料は情報提供を唯一の目的としており、何らかの行動ないし判断をするものではありません。また、掲載されている予測は、本資料の分析結果のみをもとに行われたものであり、予測の妥当性や確実性が保証されるものでもありません。予測は常に不確実性を伴います。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自にご判断ください。

*なお、資料中の図表は、断りのない限りブルームバーグ収録データをもとに作成しております。